

おひなまつり - 驚きの民俗史

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA 顧問 教育アドバイザー
張江 幸男

滞在期間の長短にかかわらず、海外に住む子ども達への日本語の教育は保護者にとって大きな問題です。このコラムでは、海外・帰国子女教育の大ベテランが「海外での日本語教育」へのアドバイスを語ります。

【1】うれしいひなまつり サトー・ハチロー作詞

- 1、 あかりをつけましょ ぼんぼりに
お花をあげましょ 桃の花
五人ばやしの笛たいこ
きょうはたのしい ひなまつり
- 2、 おだいきさと おひなさま
ふたりならんで すましが
およめにいらした ねえさまに
よくにたかんじょの しろいかお
- 3、 金のびょうぶに うつる日を
かすかにゆする 春のかぜ
すこし白酒 めされたか
赤いおかおの 右大臣
- 4、 着物きかえて おびしめて
きょうはわたしも 晴れ姿
春のやよいの このよき日
なによりうれしい ひなまつり

少し長くなりましたが、全部書き写しました。お子様とうたいながら、言葉の説明もしてやってください。

【2】三がつひなのつき

石井桃子さく 朝倉摂え 福音館書店刊

この本は我が家で子育てに、読み聞かせをした本の、親子の人気ナンバー1の本です。しかも、不思議なことに、読み聞かせの途中から妻は涙ぐんでしまいます。子ども達もそうなのです。怪訝に思って、私も読んでみました。同じように涙が出て止まりませんでした。娘は孫にも読み聞かせをしていました。

『……そうです、三月三日は、女の子のお節句でもありますが、よし子のお父さんの命日でもあったからです。』

『……それは、お母さんのお婆さん、つまり、よし子には、ひいおばあさんにあたる人が、お母さんの最初の節句に祝ってくださったものでした。そしてそれは、おばあさんのおとなりに住んでいた人形づくりのおじいさんが、あたらしく生まれた女の子のために、きもちをこめてつくってくれたものだったそうです。……』

この物語はよし子という女の子とお母さんの、ひな人形にまつわる物語です。空襲で焼けてしまったひな人形に、なぜお母さ

んはこだわるのか。ひな人形の細部のことまで記述されていますが、お母さんの仕事や生き方にまでどんな影響を与えたのか。ついにお母さんに用意してもらった雛飾りに、よし子はどんな思いで受け入れ、未来への夢を育てていくのか。お子さんは勿論のこと、お父さん、お母さんにも是非読んでもらいたい本です。

【3】ひな祭りの移り変わり

三月三日は、華やかに雛人形を飾って女の子の健やかな成長と幸せを祈る行事を行う日です。上巳（じょうし）の節句、桃の節句などといいます。

中国では漢の時代に、災厄を免れ、また不浄を除くための祓（はらえ）を行いました。もっと昔から、踏青といって除災の風習がありました。川辺に出て青い草を踏み、川の流れて褌（みそぎ）を行い、酒を汲みかわして穢れを払ったのです。秦の昭王が、踏青の折、酒杯を川に流して秦の前途を祝したという故事にならって、踏青は曲水の宴へと発展しました。

① 曲水の宴・・・細い曲がりくねった流れのほとりに座り、上流から流れてくる杯が通り過ぎないうちに詩歌を詠み、杯を取り上げて酒を飲むという風流な行事でした。次第に盛んになり東晋穆帝（ぼくてい）の永和9年（353）3月3日、王羲之（おうぎし）を中心とした文人が褌をして詩歌をつくったという蘭亭の会は有名です。日本にももたらされた曲水の宴は、顕宗天皇元（485）年に初めて行われました。

② 祓え（はらえ）の信仰・・・一方、日本には古来より祓えの信仰がありました。罪穢れを祓い浄めるため神に仕える者に、祓えをしてもらうことでした。従って、はらいではなく、はらえと他動的にいいます。古人は穢れや禁忌に触れたとき、それをあがなうために、自分の持っている物を提供して穢れを祓いました。中国の曲水の宴と日本古来の祓が習合して巳の日となり、人形（ひとがた）や撫で物に体の穢れを移して海や川に流すようになりました。これは現在でも鳥取の流し雛としてその名残を留めています。



張江 幸男（はりえ ゆきお）

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA 顧問

前全日本空輸（株）海外子女教育相談室長、元三菱商事（株）相談室長、元ニューヨーク日本人学校校長、元台北日本人学校教頭